

令和7年度 都城市立高城小学校 学校運営協議会 実施報告

1 学校の概要

学校名	都城市立高城小学校		校長名	奈須 利博	
学級数	18	児童生徒数	415名	職員数	29名
教育目標	知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな児童の育成				

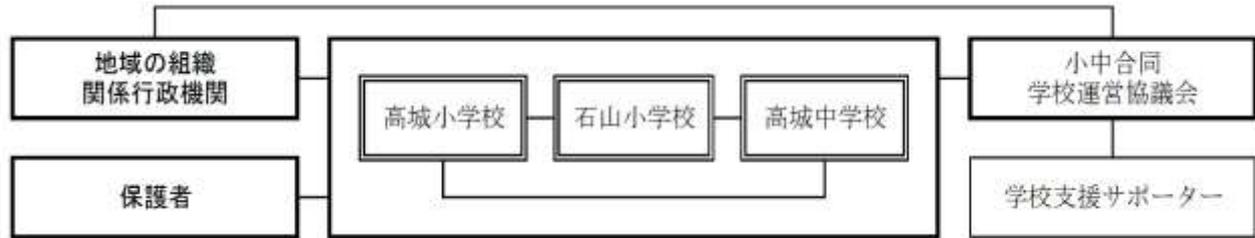
2 学校運営協議会に関わる組織

(1) 委員（計6名）・事務局（計4名）

学 校 運 営 協 議 会 委 員	No.	所属名（役職）	氏 名	備 考
	1	第7民生児童委員	川島 宏幸	会長
	2	第2自治公民館長	福島 清邦	
	3	学習サポートボランティア	外勢 徹男	
	4	学習サポートボランティア	外勢 浩子	
	5	高城小元PTA会長	徳丸 信一	副会長
	6	高城小PTA会長	上村 リエ	
	7			
	8			

事務局	役 職	氏 名
	校 長	奈須 利博
	教 頭	福岡 茂樹
	教務主任	高梨 望
	事務主幹	村橋 誠

(2) 組織編制



3 活動報告

月 日	主な活動及び内容
4 月	・学校運営協議会委員選出
5 月 29 日	・第1回学校運営協議会（高城小・石山小・高城中合同）：委嘱状交付、学校運営協議会の説明、学校経営説明、質疑
7 月 7 日	・第2回学校運営協議会：授業参観、学校の様子について説明、ふるさと学習（「昔の遊び」「日本の文化」「先輩に学ぶ」）についての熟議、学校評価について協議
11 月 13 日	・第3回学校運営協議会：授業参観、学校の様子についての説明、ふるさと学習（「昔の遊び」「日本の文化」「先輩に学ぶ」）の振り返り、学校評価についての協議
1 月 15 日	・第4回学校運営協議会：授業参観、学校の様子についての説明、学校評価アンケート結果の説明、学校評価についての協議
2 月 5 日	・第5回学校運営協議会：授業参観、学校評価、次年度に向けて協議
3 月	・次年度へ引き継ぎ

4 今年度実施した「熟議」のテーマ（小中合同学校運営協議会を含む）

7月：「ふるさと学習（「昔の遊び」「日本の文化」「先輩に学ぶ」）について」

5 学校運営協議会の意見を生かした特色ある取組

(1) 学校支援活動

学校運営協議会委員が中心となり、地域と連携した講師の選定・調整を行った。「昔の遊び」「日本の文化」については、委員のネットワークを活用して外部講師を招聘した。また、「先輩に学ぶ」の学習においては、6年生の保護者を対象にアンケートを実施し、多様な職業や経験を持つ講師を募るなど、学校・家庭・地域が一体となった体制を構築した。この取組をさらに深化させるため、委員からは「子どもたちのキャリア観に寄り添うことが重要である」という意見が挙がった。事前に子どもたちが関心のある職業を調査し、そのニーズに基づいた講師選定を行うことで、より主体的な学びへとつなげていく方向性が示された。



【昔の遊び（1年生）】



【日本の文化（4年生）】



【先輩に学ぶ（6年生）】

(2) 教育課程の改善（カリキュラム・マネジメント）

「自分の地域に誇りをもってほしい」という願いがあり、6年生は10月18日に開催した運動会で「奴踊り」を披露した。今年度は4回練習の場を設定（9月22日、9月30日、10月7日、10月15日）に設定し、奴踊り保存会の方々に指導していただいた。

本番では、体を大きく動かして堂々と踊る姿が見られた。地域に伝わる「奴踊り」を楽しみながら披露することができ、地域の伝統芸能を大切にしたいという思いが高まった。



【奴踊りを披露する6年生】

6 学校運営協議会の成果と課題（○：成果 ●：課題）

- 「昔の遊び」「日本の文化」「先輩に学ぶ」といった地域資源を積極的に活用した体験活動を展開した。地域住民との直接的な交流を通じ、児童の地域に対する愛着や関心を深めることができた。また、活動を共にする中で「人の役に立ちたい」という自己有用感の向上が見られた。
- 授業参観での児童の主体的な姿や教員の熱心な指導に対し、委員から前向きな評価を得ることができた。これにより、学校の教育方針への理解が深まるとともに、学校と地域の強い信頼関係の基盤となった。
- 学校運営協議会の活動やふるさと学習の成果を、保護者や地域住民へ広く、かつタイムリーに周知するための手法を検討する必要がある。地域全体で子どもたちの育ちを共有・共感できる情報発信体制の構築を推進していく。

7 次年度の方向性

- 今年度実施した「昔の遊び」「日本の文化」「先輩に学ぶ」の活動を、単発の体験活動に留めず、各教科や総合的な学習の時間等との関連性を整理していきたい。